

ロビー壁面のGSJロゴ

河村 幸男¹⁾

「河村くん、ちょっと来てくれる？」・・・当時の小玉所長からの電話でした。いそいで4階の所長室に駆け上がると、「GSJのロゴマークを作ろうと思うんだけど、ちょっと考えてくれる？」・・・かなり薄くなった記憶では、こんな感じだったかと思います。

これが何年ごろだったのか、ちゃんと思いつけませんが、広報係に在籍していたころだったと思います。忙しくても充実していた時期でした。

小玉さんも急いでいらっしゃったように感じられ、数日でひとつのデザインを仕上げてお持ちしました。だいたい仕事ですから本来なら数点の案を用意すべきところだと思いますが・・・

僕が文字のデザインをするときには、だいたい文字面をながめて、特徴的な(強調すると面白そうな)部分を活かそうと考えます。それからそこに込めるテーマをどうにか重ねられないか悩むんです。ロゴマークって、中の人に愛着を持ってもらうのはもちろん大事ですが、外の人への記憶にも残ってほしいですよね？そして、そのイメージが本質に近いものであればベストです。「地質」のイメージって、地層・化石・地震・火山・・・僕がそのとき選んだのは地球でした。Gを地球に重ねてつくったロゴに、小玉さんほどのように評価されたのでしょうか？もちろん修正指示が入ることを想定していたのですが、その場でOKが出て、「ついでにロビーの壁面にこのロゴをつけよう」との指示までいただきました。

おそらくこの頃、国立研究機関の大改編をひかえ、100年を超える歴史の中で世界中の地質調査機関と繰り広げてきた信頼の協力関係をなんとしても継続しなければいけないという、小玉さんのお気持ちにシンクロできる部分があったのかもしれない。

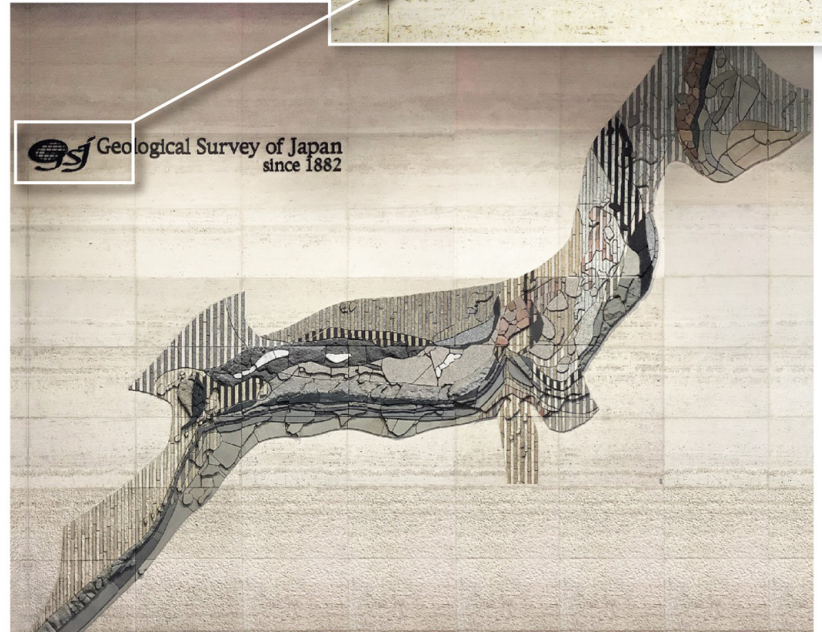


写真1 第7事業所本館ロビーの壁面展示。GSJ地質ニュース11巻2号表紙より。

そのころの僕は「地質の看板屋」きどりで、デザインやイラストのオーダーを断ることはありませんでしたが、壁に掲げるロゴマークは嬉しい仕事でした。たぶん時間的な余裕が無かったこともあって、製作できそうな職人さんを探してもらいました。運良く県内にやってもらえそうな会社を見つけることができました。時間があれば直接打ち合わせを重ねていきたいところでしたが、全てを信頼して納品を待つことにしました。造形には、樹脂ブロックから切り出す手法や、現在であれば3Dプリンタも考えられるところですが、金属板をていねいに曲げ加工しロウ付けで立体造形されたひとつひとつの文字は、まさに職人芸の出来栄でした。

今この原稿を書いている僕は、あと半月ほどで定年退職をむかえます。産総研で働いた42年のほぼ半分を地質調査所で過ごした僕が、その最後の時期にやらせてもらった仕事を思い返す機会をいただけたことに感謝いたします。

1) 産総研広報部広報サービス室